

教育・啓蒙著作賞

高井典子・赤堀浩一郎『訪日観光の教科書』

(創成社 2014年2月)

<講評>

本書はそのタイトルが示すとおり、「訪日観光」を主題としている。近年、日本へのインバウンドが急増し、「爆買い」なる言葉とともに、マスコミ一般においても訪日観光の興隆が取り上げられている。にもかかわらず、インバウンドを中心に扱った観光の専門書は少ないのが現状である。加えて、本書は以下の諸点において、専門書としてのみならず、すぐれた入門書として編まれている。

第1に、入門書として、初学者にも理解が進むように、基本的な用語の解説がなされている。第2に、この点が最も評価に値するが、観光に関わるマクロな状況や政策のみならず、具体的な事例を適宜示しながら解説がなされている。逆にいえば、事例の羅列ではなく、その事例の背景にあるマクロな動向や背景についての解説がなされている。つまりはマクロとミクロの両方の視点がバランス良く組み合わされている。第3に、それぞれの章のタイトルに現れているように、各章の問題意識が読者の視点に立って設定されており、初学者にとっては内容に入りやすい工夫がなされている。第4に、単なる事象の解説に終始せず、「理論コラム」として「観光の経済効果」「観光動機」など、観光学の理論についても取り上げられており、観光学への導入についても配慮がなされている。この点では、注や参考文献も詳しく記されており、読者による自主的学習が可能な体裁を整えている。

惜しむらくは、本書が取り扱っている動向は2012年までであり、インバウンドが1000万人を超えた2013年から2,000万人に迫る2015年という、まさに本書の主題に直結する現状までは扱えていない。もちろんこの点は致し方ないことであり、決して本書の意義を減ずるものではない。改訂版の発行が望まれる。

以上、本書は日本へのインバウンドに関して、専門書・入門書としての内容の充実と体裁において、類を見ない良書となっており、「教育・啓蒙著作賞」に該当する著作であると判断する。